

2 研究の実際 > (2) 活動プログラムの実際

オ 検証内容と検証方法

(7) 検証内容

本研究では、活動プログラムにおけるロールプレイング等のペアやグループでの活動を円滑かつ効果的に進めることにより、児童生徒が自分と異なる他者との仲間意識を育み、学級集団においてよりよい人間関係を築くことにつながると考えます。また、児童生徒が互いに関心をもち支え合う学級集団を築いている状態を、児童生徒が学級の雰囲気や学級での友達との関係を良好であると捉えている状態と考えます。そこで、以下の検証の視点に注目し、活動プログラムの効果的な進め方に関する効果を探りました。

(4) 検証方法

小学校1校（5年生36名）、中学校2校（学級：2年生32名、学年：2年生89名）、高等学校1校（1年生40名）の児童生徒を対象に、活動プログラムの実践において実施した「グループ活動アンケート」を基に、児童生徒が自分と異なる他者との仲間意識を育み、学級集団においてよりよい人間関係を築くことに関する意識の変化を見ました（回答は4件法で集約）。また、活動プログラムの実践前（5月）と実践後（10～11月）に、「がばいシート」を実施し、学級の雰囲気や学級での友達との関係に関する児童生徒の意識と行動の変化を見ました（回答は4件法で集約）。

◆「グループ活動アンケート」

このアンケートは、本研究の授業実践において佐賀県教育センターが作成した、ペア活動やグループ活動における児童生徒の友達に対する意識の変化を把握するシートです。友達に対する「関心」「親近感」「仲間意識」の3つの質問について、児童生徒の意識を問う内容で構成していません（回答は4件法で集約）。

検証Ⅰでは、この「グループ活動アンケート」を基に、友達に対する「関心」「親近感」「仲間意識」に関する3つの視点で考察します。

【検証の視点Ⅰ-A：関心】

○質問：「今日一緒に活動した相手のことを、もっと知りたいと思いましたか」（小中高）

【検証の視点Ⅰ-B：親近感】

○質問：「今日一緒に活動した相手と親しくなれたと思いましたか」（小）

○質問：「今日一緒に活動した相手との距離が、活動前よりも縮まったと思いましたか」（中高）

【検証の視点Ⅰ-C：仲間意識】

○質問：「今日一緒に活動した相手と、また一緒に活動したいと思いましたか」（小中高）

◆「がばいシート」

このアンケートは、平成20年度に佐賀県教育センターが作成した、学級における集団や個人の状態を把握するシートです。「学級の雰囲気」「友達との関係」「自己存在感」「授業への意欲」「教師との関係」の5つの項目（それぞれ5つずつの質問）について、児童生徒の意識や行動を問う内容で構成していません（回答は4件法で集約）。

検証Ⅱでは、この「がばいシート」を基に、「学級の雰囲気」「友達との関係」の2つの視点で考察します。

【検証の視点Ⅱ－A：学級の雰囲気】

- 質問：「あなたのクラスは、明るく楽しい雰囲気だと思いますか」
- 質問：「あなたのクラスは、だれとでも話しやすい雰囲気だと思いますか」
- 質問：「あなたのクラスでは、ルールが守られみんなが気持ちよく過ごせていると思いますか」
- 質問：「あなたのクラスでは、だれかが悲しむような言動はありませんか」
- 質問：「あなたのクラスは、問題があったとき、みんなで考え解決しようとしていますか」

【検証の視点Ⅱ－B：友達との関係】

- 質問：「あなたは、仲間に入れてくれる友達がいると思いますか」
- 質問：「あなたには、何でも話せて、分かってくれる友達がいると思いますか」
- 質問：「あなたには、困っているときに助けてくれる友達がいると思いますか」
- 質問：「友達は、あなたの秘密や約束を守ってくれると思いますか」
- 質問：「あなたは、友達から傷付けられること（悪口、暴力、無視など）がありますか」

→各質問について、4件法の選択肢を、好ましい回答の順に「思う・4」「少し思う・3」「あまり思わない・2」「思わない・1」のように数値化して、各項目の5つの質問に対する児童生徒の回答の合計の平均値を考察

《引用文献》

(1) 佐賀県教育センター

好ましい人間関係を育てる開発的・予防的教育支援の在り方の研究
－「がばいシート」を活用した実践を通して－

http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h21/10soudan/index_soudan.html